

①



除夜会の準備



# 慈光

春 号

- ①お知らせ
- ②春彼岸永代経法要
- ③今後の予定
- ④住職のコラム

## ○春季彼岸会 永代経法要のお知らせ

三月十九日(日)・二十日(月) 午後一時より読経法話

両日とも午前十一時半からおつき 昼食をご用意しています。

## ○納骨法要

三月十七日(金)から二十日(月)までお詣りいただけます。住職が納骨堂で申経できる時間帯もありますので、開館時間などの詳細は「三冊」を確認ください。

## ○平成二十九年寺院維持年会費納入のお願い

本年の寺院維持年会費の納入をお願いいたします。また彼岸会永代経法要の志納も重ねてお願いいたします。納骨段所の方は該当しません。

## ○冬期間法務のお詫び

昨年末の大雪で、札幌市内は一時、麻痺状態になったことは記憶に新しいと思います。慈光寺も、法務に出られなくなり、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。境内地の除雪は、朝、業者さんに来てもらっています。あつときは全く追いつかず、何度も除雪をして法務に出しましたが、札幌市内は大渋滞でどこへ行くにも一時間から二時間を要しました。やっとそろそろ春の訪れを感じてきました。が、まだまだ何が起るか分からない今年です。

② ○春季彼岸会 永代経法要のお知らせ

三月十九日(日)・二十日(月) 午後一時より読経講座

両日にわたり真宗講座と題して、テーマを設けてお話をしたいと思っております。専門的な話になるかもしれませんが、何故、念仏を称えるのかについて、親鸞聖人の言葉を通して、考えてみたいと思います。

午前十一時半過ぎよりおとき(昼食)をご利用していただけます。お気軽にお申し込みください。

○虚空の間 納骨堂詣りについて

三月十七日(金)～二十日(月)

開館時間：午前九時～午後五時まで

時間外でのお詣り希望の方は、恐れ入りますが、お寺に一度ご連絡を下さい。

なお、法要中の**十九日(日)**・**二十日(月)**は、住職と衆徒お手伝いのお寺さんが納骨堂で待機しておりますので、申せいたします。またお花(五百円程度)も用意しておりますので、お気軽にお詣り下さい。恐れ入りますが、**十九日(日)・二十日(月)詣りは休ませます。**

▲平成二十九年(令和元年)度寺院年間維持費 春彼岸志納

平成二十九年(令和元年)度の寺院維持年会費の納入をお願いいたします。

他、春のお彼岸 永代経の志納をお願いいたします。昨年、住職の不幸から維持年会費および志納の封筒を、該当の方にお送りするのを失念いたしました。大変申し訳ありませんでした。封筒が「不要の方や郵便振替用紙不要の方もいらっしやるか」と思いますが、便宜上、同封している場合がありますので、この点は、ご承知ください。

寺院維持年会費ならびに志納は、一括、または分納で郵便振替でも頂戴しております。ご希望の方は**郵便自動引落**の手続きをしていただくと、お檀家様で指定した金額、月、日にちで引き落とすことが可能です。**納骨堂をご利用の方は異なります**。新檀家様の年会費志納の納入方法は異なるため、別途ご案内しております。

現金での支払いは、住職がお詣りの際に、領収書をお渡します。



株式会社 極楽堂はなや

札幌市中央区南8条西9丁目

011-561-0909

○平成二十九年度 行事予定 法事以外

前半 お盆詣り前の行事予定です。

四月二十二日(土)～二十四日(月)

木辺通信教育 滋賀県野洲市錦織寺上山

五月七日(日) お釈迦様の誕生日 婦人会主催花まつり

六月中旬頃(未定) 京都龍谷大学出講

七月十三日(木)・十四日(金) 北海道教区大会

七月下旬(未定) 夏安居

※変更がある場合、ホームページの「行事予定」でお知らせします。

布教予定日

四月一日(土) 午後一時半

六月一日(木) 午後一時半

七月一日(土) 午後一時半

○瑞雲閣 樓閣の間 ホール利用について

法事では皆さまにご利用いただきっております。本当にありがとうございます。

ホール利用に際して、使用料はお食事をされる場合は、

一万五千元 光熱費は要相談です。

読経のみの場合は、

一万元 光熱費は要相談です。

ホールの施設 祭壇・ろうソク 線香 焼香台)はすべてご利用いただけます。

葬儀利用の場合は、お寺にご相談ください。基本プランを御案内できます。利用人数は二十五名程度です。

瑞雲閣【二階虚空の間 納骨堂】は、現在余裕がありません。今年のよう

な大雪でも、お詣りが可能です。

ご検討の方は、

お問い合わせください。



## 住職さんにきいてみよう その38 学ぼう

④

ここ最近の私のコラムは現状報告ばかりでしたが、今年から浄土真宗のことや仏教思想について学ぶ機会を設けたいと考えております。不定期になるかもしれませんが、真宗学について触れてみたいと考えています。

はじめは、法事や法要で読む「お経」について書きましよう。浄土真宗の根本聖典は、「浄土三部経」と言います。それは『仏説無量寿経』上下二巻『仏説観無量寿経』一巻『仏説阿弥陀経』一巻を言います。親鸞聖人は「浄土三部経」の中で、真実のお経は、『仏説無量寿経』であるとおっしゃっています。その書物は、『顕浄土真実教行証文類』という長い名前が付いており、私たちは『教行信証』と略しています。これは今後も度々触れる機会があるので、今は割愛します。

さて、「お経」と私たちは普通に言いますが、正確には「経典」といい、インドで書かれたものを指します。「インドで書かれたもの」とは、サンスクリット語で書かれたお経で、皆さんは梵字を想像するかと思いますが、正確には異なるのですが、今はローマ字化された経典を見ることができ、仏教研究では広く用いられています。

では、インドで書かれていないお経があるのかどうかですが、中国で書かれたお経があり、学問的には「疑経典」と定義されています。「うたがい」と書かれてあるので、

さも怪しいように思われますが、サンスクリット語の原典がない、またはサンスクリット原典がない可能性がある、つまり疑いがある経という意味から、「疑経典」と言われます。疑経典はインドから伝わった経典の影響を受けて、中国で作られました。有名なのは、『盂蘭盆経』（うらぼんきょう）や『父母恩重経』（ぶもおんじゅうきょう）です。お盆・盆踊りの元になった『盂蘭盆経』。親の恩を知り供養しなさいと説いた『父母恩重経』。親鸞聖人は、自分の書物では疑経典を引用しませんが、中国では盛んに読まれるようになったそうです。

私たちは根本聖典である「浄土三部経」を重視し、読経することを作法としますが、最近、三部経読誦を聞かなくなりました。地方によって三部経読誦をしているとお伺いしましたが、大部なので、まともに読むと半日かかります。私達にとっては、必ず意味も理解し読めるようにならないといけない経典です。私は法事するとき、三部経の要所を略した経本を読んでいます。男性の場合は『仏説無量寿経』の一部を、また女性の場合は『観無量寿経』を読んでいます。四十九日（満中陰）法要や一周忌、三回忌など、それぞれに応じて読むようにしています。

では次回から、何回かに分けて「浄土三部経」の内容について書きましよう。

昨年末から今年にかけての大雪で、すべてが狂ってしまいました……。お語りにお伺いする皆さまには「今年は、雪が多くて大変だね。長い冬だね」という話題になります。毎年、『慈光』春号の作成にかかると、やっと長い冬が終わると感じますが、今年はまだまだのようですね。合掌